

不況と大量失業時代に、労働者協同組合の旗を高く掲げ

—日本労働者協同組合連合会センター事業団、第2回全国代表者会議の基調報告より—

編集構成：『協同の発見』編集部（『日本労協新聞』より）

事業・運動の新段階

センター事業団は5月の総代会以後、映画上映運動、高齢者協同組合づくり、自治体集中行動などに力を注ぎ、新しい事業を拡大してきました。

映画『病院で死ぬということ』の上映運動では、これまで考えもしなかった地域の人たちとの結びつきができ、自治体行動も14都県、67市、11町村、12特別区を訪問し、今までの規模や領域をはるかにこえた広がりを蓄積してきました。特に自治体とは高齢者協同組合構想をめぐって内容の濃い話し合いができ、協同と公共の新しい関係や枠組みを創り出すために確かな成果を残しています。

事業の中身では、①病体生理研究所との提携、②京都生協との新たな提携、③パラマウント製靴との提携、④パン製造と食材加工センターの実現、などの新分野が開拓されてきました。これらの事業は、いずれも高齢者協同組合やごみ資源リサイクル事業との結合が追求され、福祉と環境分野を軸に事業の複合化・高度化・総合化へ向かって着実な広がりを実現しつつあるといえます。

そして労働者協同組合の発展はあらゆる人々あらゆる組織との結合、つまり協同の力によって生まれてくることも実感できるようになりました。

このような到達点にたつて、センター事業団は次の四つの基調で事業と運動を進めていきます。

- ①激動する情勢と21世紀へ向かって進む社会経済の変化の過程をしっかりと見すえて、労働者協同組合運動の力強い発展を期す。
- ②全組合員経営を全組合員のものとして、健全経営の徹底により基礎力の強い組織を作りだす。
- ③事業の飛躍と運動領域の拡大を大胆におしすすめ、高齢者とごみリサイクルの二つの課題を重点に事業の複合化・高度化・総合化をめざす。

- ④こうした事業・運動の中で、組合員がその能力を全面的に発揮し、人間的な全面的成長と品性の向上を成しとげられるようにしていく。

不況と大量失業時代の運動の創造

現在の深刻な不況と失業雇用不安は、高度成長以来続けてきた大量生産・大量消費・大量廃棄の仕組みそのものが限界に来て、あらゆる産業・雇用構造、政・官・財癒着の構造など一切の社会の仕組みが大転換の時にきていることの現れです。もうけ中心の企業は、この事態に直面して首切り、生産拠点の海外移転、地域の産業の空洞化、海外での一段と激しい摩擦を生み出しています。

しかし、一人一人の労働者は、企業の中での自分の存在意義を考えざるをえなくなっており、生活の本当の豊かさや真の人間性に目覚める条件が熟しつつあるといえます。

事業団・労協運動は社会のぬきがたい矛盾である雇用不安・失業問題から生まれてきたもので、今日の経済情勢は労協にもきわめて厳しい経営をせまるものですが、これにひるんで萎縮するならば、そもそも労協とは何であったのかと疑問を持たざるをえなくなります。根源を見すえ、失業・倒産などに苦しむ人々と結んだ新しい運動の流れを創り出していくことが求められているのです。

【具体的な行動計画】

- ①地域の雇用・失業情勢について認識を高める。
- ②職安や全労働省労組との懇談などにより国の対策について話し合う。
- ③現に倒産や失業不安をかかえる所へ労協の宣伝を広げ、不安定就労層へも結びつきを強める。
- ④この問題での地域懇談会をもち、協同集会の中にも位置づける。
- ⑤仕事を求める人の登録運動を開始する。

全員の出資—全組員経営へ

今春の総代会以来、全員が出資して組員になるという取り組みが進められ、ほぼ9割近くの人が出資するところまでできました。1000人が1700人の組員となり、新しい事業所は募集の時点から出資の原則を明確に訴えています。出資はICA協同組合原則の原則中の原則であり、全員出資は少々のことではくずれない組織を確立し、全組員経営へ向かう画期的な一歩だといえます。

一方、経営状態の悪化は組員の財産をくいつぶし、労働者協同組合の基盤をゆるがすものであることを改めて胆に銘じ、健全な経営を守りぬくことが大事になっています。

【具体的な行動計画】

- ①全員が出資し、常に増資計画をもつ。
- ②全組員経営らしい事業計画をたて幹部の作文の段階をこえ全組員の実感あるものとする。
- ③月次事業計画の立案、「1カ月運動」の組み立て、毎月のブロック会議の全国一斉開催。
- ④業務日誌記帳と本部への日報で1日を締める。
- ⑤話し合いは週1回必ず行ない、月に一度は講師をよぶなど学習・教育計画をたてる。
- ⑥機関紙の読み合せと通信をすすめ、外への購読を訴える。
- ⑦「組織活動の指針」にもとづいてすすめる。

事業の複合化・高度化・総合化を

労働者協同組合は人と地域の必要とする仕事を見出し事業化する、その総合的能力を獲得していく道を歩んできました。今、「経営的に成り立たせる」とこと、「よい仕事を労協らしく」という二つの共通スローガンを大事にしながら、事業をより高い段階へ、総合的なものへと発展させていくことが重要な課題になってきています。その軸に高齢者協同組合と環境・ごみリサイクルの「二大全国共通事業」をすすめています。

【具体的な行動計画】

- ①さまざまな仕事を手がけ、複合的・総合的に組み立て直し、総合的な提案を行なう。

②一企業一部分のコスト意識だけではなく社会全体のコストを考えて仕事を組み立て直す（社会的効率、社会的コストの軽減という視点）。

③仕事のある部分を受持つことから、一つの完結する仕事を請負い、新しい仕事と結合させる。

「高齢者協同組合」

※本誌3頁、宗田幸彦氏論文参照

「環境・ごみ資源リサイクル」

①感染性医療廃棄物を柱に、病院のごみ処理を事業化し、毎日収集・適正価格などに取り組む。

②山口県・光事業団と提携し、これまでのごみ資源リサイクルを新しい段階に発展させる。

③全事業所が自治体や病院の現状を深くつかみ、全事業所で事業化するための会議を開催する。

「現在の仕事の大拡大」

①ビルメン、緑化・公園等の事業を全事業所で倍化する。

②映画上映運動で結びついた自治体・病院・個人へ事業化のつながりをもつ。

③必要な資格や免許の取得を全力ですすめる。

組員の能力の全面発揮、人間的成長

労働者協同組合は働く人間そのものの組織であり、一人一人の組員が真に人間らしく成長するというのが伴わないかぎり、労協の本当の意味での発展もないと思われれます。

今、全団員の組員化、共済事業、高齢者協同組合構想などによって、一生を労協組員として働き、生活していく人生を設計しうるところまでできました。そのためにも一人一人がいかに輝き、成長し、品性を向上させるかという点を意識的に追求していくことが重要になっています。

【具体的な行動計画】

- ①一人一人が学習・教育の計画をたてる。
- ②事業・運動に対して、自分がどういう立場、どういう考えでのぞむのかをはっきりとさせる。
- ③資格や免許の取得を含め、技術や技能を高め活かす努力をする。
- ④特に女性は、様々な家庭や生活の困難をこえて新しい仕事や任務に挑戦する。